

第4次井原市子ども読書活動推進計画

～いばらいきいき読書プラン～



令和2年3月

井原市

目次

はじめに	1
第1章 第4次計画策定の基本的な考え方	2
1 子ども読書活動推進計画策定の経緯と目的	2
(1) 経緯・背景	
(2) 読書活動の意義	
2 めざす子ども像と発達段階における目標	3
3 不読率の現状と目標	5
4 計画の期間	6
第2章 第3次計画に基づいた取組の主な成果と課題	7
1 家庭における子どもの読書活動推進	7
2 学校園における子どもの読書活動推進	9
(1) 保育園・幼稚園の取組	
(2) 小学校・中学校の取組	
3 市立図書館における子どもの読書活動推進	12
4 地域における子どもの読書活動推進	15
(1) 公民館での取組	
(2) 井原保健センター（健康医療課・つどいの広場を含む）、 児童会館での取組	
(3) 読書ボランティアの取組	
第3章 子ども読書活動推進のための方策	17
1 家庭における子どもの読書活動推進	17
(1) 家庭の役割	
(2) 家庭の取組	
2 学校園における子どもの読書活動推進	18
(1) 学校園の役割	
(2) 学校園の取組	

3	市立図書館における子どもの読書活動推進	21
	(1) 図書館の役割	
	(2) 図書館の取組	
4	地域における子どもの読書活動推進	23
	(1) 地域の役割	
	(2) 地域の取組	
第4章 子どもの読書活動推進体制の整備及び広報啓発等		25
1	子どもの読書活動推進体制の整備	
2	各推進主体の連携強化	
3	読書活動推進の啓発	
おわりに		26

参考資料

はじめに

読書を通じて、子どもは読解力や想像力、思考力等を育み、多様な文化や考え方を理解したりすることができるようになります。読書活動は、人生を豊かにより深く生きる力を身につけていく上で、欠かすことのできないものです。

井原市では、子どもたちの読書活動が推進されるよう、第1次、第2次、第3次の推進計画により、平成17年度から組織的計画的に取り組んでまいりました。この度、第3次計画に基づいた取り組みの成果と課題を踏まえ、今後5年間の総合的な施策の方向を示す「第4次井原市子ども読書活動推進計画～いばらいきいき読書プラン～」を策定いたしました。計画の目指す「自ら本を読み、読書を通じて自分の生活をより豊かにできる子ども」を育てることができますよう、子どもたちの読書意欲の向上やそのための環境整備に、鋭意取り組んでまいりたいと思います。

最後になりましたが、本計画の策定に当たり、ご提言をいただきました井原子ども読書推進実行委員会の方々をはじめ、市民の皆さまから貴重なご意見をいただきましたことに対し、深く感謝申し上げます。

令和2年3月

井原市長 大 舌 勲

第1章 第4次計画策定の基本的な考え方

1 子ども読書活動推進計画策定の経緯と目的

(1) 経緯・背景

平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動^{*1}を行うことができるよう、環境の整備が推進されなければならない。」との基本理念が示されました。

井原市では、この法律に基づき、平成17年3月に「井原市子ども読書活動推進計画～いばらいきいき読書プラン～」(以下「第1次計画」という。)、平成22年3月には「第2次井原市子ども読書活動推進計画」(以下「第2次計画」という。)、平成27年3月には「第3次井原市子ども読書活動推進計画」(以下「第3次計画」という。)を策定し、計画の進捗及び社会状況の変化等に即しながら、子どもの読書活動を推進するためのさまざまな活動に組織的かつ計画的に取り組んできました。

しかし、この間にも電子メディア^{*2}、インターネットやSNSは急速に普及・発達し続け、さらに電子書籍や絵本アプリの利用の広がりも見られます。このように、子どもの読書活動を取り巻く状況は、今後も一層変化していくことが予想されます。その一方で、子どもの「活字離れ」「読書離れ」に歯止めをかけるためにも、子どもの読書活動を一層推進しようとする機運の高まりも見られます。

「第4次井原市子ども読書活動推進計画」(以下「第4次計画」という。)は、そのような諸情勢の変化等も踏まえながら、第3次計画期間における成果や課題を整理することで、今後5年間における子ども読書活動推進の更なる充実をめざした施策の基本的方針と具体的な方策等を定めたものです。

(2) 読書活動の意義

読書活動は、子どもたちに喜びや驚き、楽しみなどの感動をもたらしたり、知的好奇心を満足させたりします。また、子どもたちは、読書活動を通じて言葉を学び、感性を磨き、思考力や想像力を豊かにすることで、コミュニケーション能力や自己肯定感を高めていきます。これらの読書活動を通して得られるさまざまな力は、未来を担う子どもたちにとって、生涯にわたって自分を支え成長させていく礎となり、心豊かな人生に資するかけがえのないものです。

家庭・学校・市立図書館・地域という子どもの読書活動を推進する主体（以下「推進主体」という。）が、子どもの読書活動の意義やそれぞれが果たすべき役割を認識し、互いが協力し合いながら組織的、計画的な環境整備を進めることが何より重要だと言えます。

2 めざす子ども像と各発達段階における目標

これまでのような経緯・背景、意義を踏まえ、各推進主体がそれぞれの役割を果たすとともに連携して支援を行うことで、以下のような子どもの育成をめざします。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○ 自ら本を読む子ども○ 読書を通じ自分の生活をより豊かにできる子ども |
|--|

周囲の大人たちの適切な支援のもと読書活動を積み重ねることで、子どもたちは本に親しみ、自ら進んで本を選び、読むという読書習慣を身につけます。

そして、さまざまな本との出会いから、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにするとともに、知識や情報を収集・活用する手段や社会との関わりを学び、自らの人間性を培い、人生をより広く深く生きようとする態度を身につけ、自分の生活を豊かにしていける子どもの育成が図れると考えます。

その実現に向け、各発達段階における目標を以下のように設定します。

乳幼児期

子どもが絵本に初めて出会い、読み聞かせてもらったり、自ら手にとって見たり読んだりして、読書活動に親しむ時期です。早期から適切な読書活動を取り入れ、子どもと本との関わりを増やしていくことは、読書活動への興味関心を高めるとともに、読書活動から得た発見や驚きをもとに自分なりのイメージをふくらませる想像力の育成につながります。

更に、この時期に身近な大人との読書活動の機会を多くもつことは、人と関わったり他者と感情を共有したりすることの喜びや安心感を味わわせることとなり、よりよい成長の支えとなる自己肯定感や他者への基本的信頼感の育成にもつながります。

目標 ○絵本との出会いや読み聞かせなどの読書活動を通して、子どもが本に親しんだり、それらを読んでくれる大人たちとふれあったりする機会を意図的・継続的に用意することで、本や読書活動が好きな子どもを育てます。

小学生期

子どもが読書習慣を身につけるための入門期と言えます。小学校前期では、いろいろな本の読み聞きを繰り返すなどの読書活動を通じ、丁寧につづられ、語られたことばをイメージ豊かに読み進め、自らのものにしていくことにより、よりよい読書習慣の素地がつくられていきます。

後期においては、多様な本に出会い、読書をする喜びを感じたり読書から学んだりする経験の積み重ねが、自らの興味関心や目的に応じた主体的な読書活動の基盤となっていきます。

目標 ○日常的な家族読書^{※3}を支える取り組みやイベント、学習と関連づけた読書活動などを積極的に設定し、読書の楽しさを味わわせたり、読書を通して学ぶ経験をしたりすることで、読み聞かせから読書への移行を支援するとともに、子どもの読書意欲の向上や読書習慣の基礎づくりを図ります。

中学生期以降

ものごとへの関わり方や考え方が拡大・深化するにつれて、個々の興味関心や目的に応じた主体的な読書ができるようになる時期です。その一方で、読書に対する意欲が二分化する傾向が顕著になり始める時期でもあり、読書活動のあり方が大きな課題となっています。現実社会といかに向き合い、どう生きていくべきか模索していく中で、幅広い読書や専門的な読書及びそれらに関連した読書活動を行うことは、子どもがものの見方や考え方を広げたり、人としての生き方を考えたりする一助となり、心豊かな人生を送っていくための大きな礎となっていきます。

目標 ○さまざまなジャンルの本やそれらにまつわる人物（著者、作者、登場人物）との出会いを通して、新たな知識を得たり想いや生き方にふれたりする経験を増やすことで、単に学習のための読書という枠を越え、自らの興味関心や目的に応じた幅広く専門的な読書や読書活動ができるよう支援します。

3 不読率^{※4}について現状と目標

「不読率」とは、1か月間に1冊も本を読まなかった人の割合を指します。（第3次計画では「未読率」）

国全体での値は、小学生で5.6%、中学生では15.0%となっています。また、岡山県が行った「青少年の意識に関する調査」の結果によると、県内の未読率は小学生が5.9%、中学生が17.2%となっています。これらに対し、今回市で行ったアンケート結果によると、井原市の未読率は、小学校2年から3年生で1.8%、4年から6年生で3.3%、中学生で12.8%となりました。このことから、井原市における児童・生徒の読書活動は、国全体、あるいは岡山県全体と比較しても意欲的であるといえます。

しかし、第3次計画における目標の達成はできておらず、逆に小学校高学年・中学生の不読率が増加していることから、決して安心できる状況にはありません。特に中学生の読書活動の推進に力を入れていく必要があるといえます。第3次計画に引き続き、不読率を0%にすることを目標に方策を進めます。

不読率（未読率）と今後の目標値に関する表（％）

	国	岡山県	井原市		
	H29	H27	H26	R1	目標値(R6)
小学校1～3年生	5.6	5.9	3.2	1.8	0.0
小学校4～6年生			2.7	3.3	0.0
中学生	15.0	17.2	7.5	12.8	0.0

4 計画の期間

令和2年度からの概ね5年間を実施期間とします。

第2章 第3次計画に基づいた取組の主な成果と課題

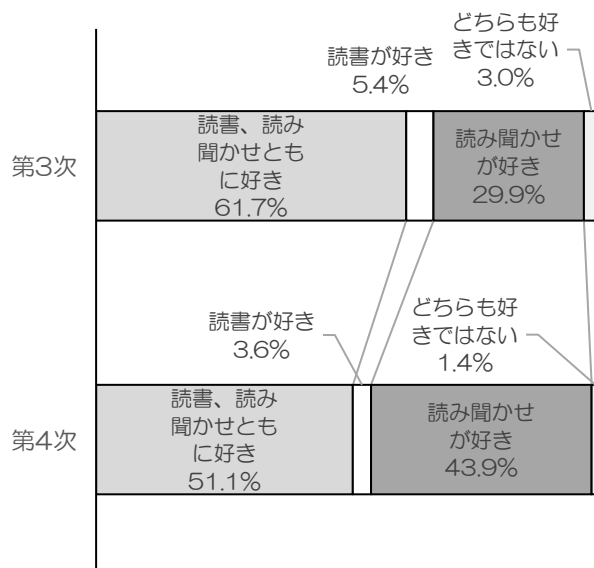
1 家庭における子どもの読書活動推進

成果

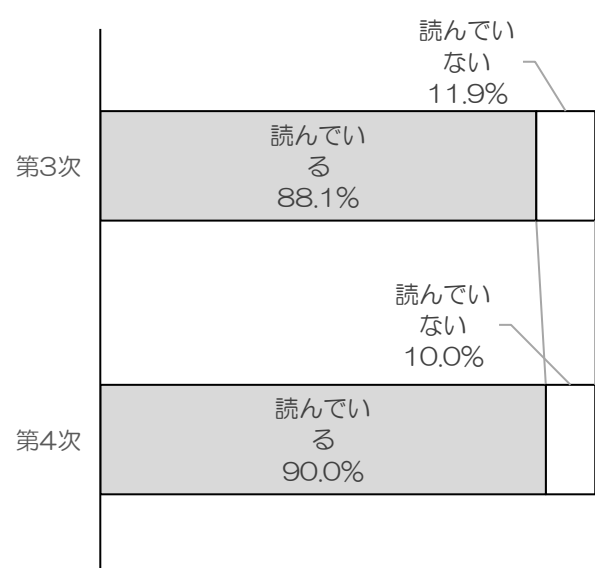
- ブックスタート事業^{※5}、セカンドブック事業^{※6}の定着により、子育てにおける読み聞かせや読書活動の重要性に対する理解が進んでいます。
- 読み聞かせを行っている家庭の割合が、第3次計画における調査時より増えています。
- 読書や読み聞かせが好きな幼児は98%であり、前回よりも上昇しています。
- 幼・保・小の保護者の図書館利用率が向上しています。
- 絵本ガイドや図書だよりの作成・配付、市広報の活用などにより、読書活動や読書イベント、推薦図書に関する家庭への情報量は増加しています。
- セカンドブック事業の際に図書館の利用者登録を行うことで、低年齢の図書館利用者が増えています。

～アンケート結果より抜粋～

あなたのお子様は、読書や読み聞かせが好きですか。(幼稚園・保育園保護者)



読み聞かせを行っていますか。(幼稚園・保育園保護者)



課題

- 読書活動の重要性はよく理解されているものの、生活スタイルや価値観の変化や多様化により、その思いが実生活に活かされていらない傾向が見られます。
- 学校園を中心とした「家族読書」推進に向けた取り組みは進んでいるものの、各家庭における理解や浸透は、まだ十分とは言えません。
- 読み聞かせや読書を子どもの意識に任せている保護者が多く、積極的な働きかけが弱い傾向が見られます。
- 保護者が書籍を「全く読まない」割合が増えており、家庭における読書、「親自身が読書をする姿」が不足しています。親自身の読書活動も子どもの読書活動に少なからず影響を与えることから、大人の読書活動が望まれます。
- スマホやSNSの急速な普及など、子どもを取り巻く情報環境が大きな変化を見せており、これらが子どもの読書環境にも大きな影響を与えている可能性があり、実態把握や分析が必要と考えられます。

2 学校園における子どもの読書活動推進

(1) 保育園・幼稚園の取組

成 果

- ・ 読み聞かせや紙芝居、ストーリーテリング^{※7}など、読み聞かせボランティア団体なども活用しながら実施しています。
- ・ 生活の節目や季節の変化に即した読み聞かせを、全園で実施しています。
- ・ 団体貸出については、12幼稚園、6保育園で活用できています。
- ・ 園の図書環境整備では、シールや色テープなどで分類し利用しやすくしています。
- ・ 多くの園で、図書環境の整備・充実が図られています。
- ・ 全ての園で、子ども読書推進に係る保護者・家庭啓発を行っています。

課 題

- ・ 図書の購入は計画的になされていますが、引き続き充実が望まれます。
- ・ 古い本や痛んでいる本も多く、補修・更新の必要があります。
- ・ 日常的な読み聞かせは積極的にできていますが、独自で読書イベントの開催を行っている園は前回と同じく5園であり、積極的な企画・開催が望まれます。
- ・ 読書活動推進に関する園独自の研修会の開催や、市で開催される研修会への積極的な参加が望まれます。
- ・ 読み聞かせ以外でも、本の貸出や修理等でボランティアの活用を進めていくことが望まれます。
- ・ 子ども読書推進に係る保護者・家庭啓発を、引き続き内容・方法を工夫しながらすすめていくことが望まれます。

(2) 小学校・中学校の取組

成 果

- 市内全小・中学校における朝読書の実施、読み聞かせ、ストーリーテリングや本の紹介、委員会活動や読書関連行事の開催等により、楽しい読書活動の場が多く設定されてきています。
- 各校とも図書担当者を中心として校内体制の確立とともに、学校司書と連携しながら全体計画の立案や図書だよりの作成その他の読書活動を推進しています。
- 市内小・中学校のほとんどが、図書館団体貸出や移動図書館車「さくら号」を利用するなど、市立図書館と連携することで大きな成果を挙げています。
- 市内全小学校で児童に対する読み聞かせを実施しています。中学校でも2校が実施しています。
- 市内全小・中学校において、図書の時間に学校司書が入り、支援しています。特に低学年において多く時数をあてています。
- 多くの小・中学校で学級文庫を配置し、活用しています。
- 市内全小・中学校において、本の推薦・紹介や学級文庫の充実、読書活動に取り組み、児童生徒の読書意欲の向上を図っています。

課 題

- 魅力ある学校図書館づくりのための読書環境の整備については、継続して工夫・努力していく必要があります。
- 蔵書数は、市内全小・中学校で国の基準を満たしてはいますが、発行年度が古い本もあるため、蔵書の計画的な更新が引き続き望まれます。
- 国語科等の教科指導内容に関連した図書の更新や計画的な購入が望まれます。特に、調べ物に必要な社会科関連の図書の更新が望まれます。
- 読書活動推進に関する学校独自の研修会の開催や、市で開催される研修会への積極的な参加が望まれます。
- ノーメディアの取り組みを実施するなど、家族読書などを奨励するための具体的な方策が引き続き期待されます。
- 多くの小・中学校で、読書推進に係る保護者啓発ができていますが、前回に比べ、実施校の数がやや後退しています。図書だよりの発行やPTAと連携した研修会の実施など、引き続き、内容や方法を工夫して取り組むことが期待されます。
- 特別な支援を必要とする児童・生徒の読書活動への支援が望まれます。

3 市立図書館における子どもの読書活動推進

成 果

- 市内3館・移動図書館車「さくら号」の図書の実質を進め、各学校園や公民館へ、読書するための本や読み聞かせや学習資料となる図書の団体貸出を実施しています。また、学校司書、教諭との連携を行い、必要な資料の収集にも努めています。児童図書貸出数が増加しています。
- 子どもにとって魅力ある図書や学習に必要な図書を努めて収集し、情報提供を行いました。また、季節をテーマにした本のコーナーや特別展示コーナーを設置し、読書への関心・意欲を喚起しています。
- 市内3館の蔵書を週4回相互に配送することや県内外の図書館から相互貸借を行うことでリクエスト^{*8}やレファレンス機能^{*9}の実質に努めています。
- ブックスタート事業・セカンドブック事業を継続して行い、保護者に向け、子育てにおける読書の意義や絵本の紹介や読みきかせの方法等について説明を行いました。セカンドブック事業ではアンケート調査を実施し、ブックスタート事業以降の家庭での読み聞かせ状況について把握しました。また、読書手帳^{*10}を配付し、読書意識の継続・向上に努めています。
- 読み聞かせボランティア育成のための実践的講座・ワークショップを開催しスキルアップ向上に努めています。
- 市内で活動するボランティア団体を調査把握し、ボランティア活動に必要な図書や情報提供に努めています。
- 図書館ホームページの「こどもページ」を活用し、図書館利用の促進を図っています。
- 「こどもとよだより」を発行し、新刊図書や推薦図書を紹介しています。
- ヤングアダルトなど中学生期に興味関心があるライトノベルや目的に応じた幅広い図書の収集及びライトノベルコーナーとして設置し読書への関心を促しています。
- 井原市ホームページ、図書館ホームページ、広報いばら、井原放送、チラシやポスター等を通じて、子どもが参加できるイベント、子育てをしている保護者や家族を対象とした読書活動推進のイベント等の情報発信に努めています。

【幼児及び各年代の年間利用者数の推移（人）】

	平成25年度	平成30年度
幼児（0～6歳）	3,570	4,107
小学生（7～12歳）	13,202	13,352
中学生（13～15歳）	1,938	1,647
高校生（16～18歳）	1,487	687
19～20歳代	2,812	2,224
30歳代	8,818	6,683
40歳代	10,736	10,893
50歳代以上	24,466	27,962
計	67,029	67,555

【各館の児童図書数比較及び貸出数の推移（冊）】

		平成25年度	平成30年度
児童図書数	井原図書館	42,416	50,951
	芳井図書館	20,752	24,220
	美星図書館	15,045	18,788
	さくら号	11,651	13,186
	合計	89,864	107,145
児童図書貸出数		109,331	114,916

課 題

- 子どもが自主的に図書を選び、子ども連れでも利用しやすい環境づくりが引き続き求められます。
- 子どもにとって魅力ある図書や学習資料として必要な図書を、引き続き収集し情報提供を行う必要があります。
- 読み聞かせや身近な読書環境を提供する場として必要な資料の提供を積極的に行うことが期待されます。
- 市内3館・移動図書館車「さくら号」の図書の充実を引き続き進め、各学校園や地域への団体貸出の利用推進に努める必要があります。
- 読み聞かせボランティア育成のための実践的講座・ワークショップを継続して開催し、ボランティアのスキルアップに努めることが望めます。
- ボランティアスタッフの固定化・高齢化傾向があり、新規のボランティアを育成していくことが望めます。
- 市内で活動するボランティア団体を調査把握し、連携を深めていく必要があります。
- 子どもを含め、より多くの市民が図書館を利用する契機として、各年代が参加できる読書イベントを、開催場所や日時の配慮を行うなどして計画することが望めます。その際、ボランティア団体との連携を強めることが望めます。
- 読書離れが進む傾向にある学齢の高い子どもが読書への興味・関心を高められるよう、学校園等と連携し手立てを講じることが期待されます。
- 子どもを含めた幅広い世代が利用しやすいよう、図書館をより発展させていく必要があります。

4 地域における子どもの読書活動推進

(1) 公民館での取組

成 果

- ・ 幼児教育学級、家庭教育学級や土曜学習の場として活用され読書活動にも充てられています。また、出前児童会館（読書イベント）の会場としても活用されています。
- ・ 読み聞かせボランティアの活動の場として活用されています。
- ・ 各館とも、図書室、図書スペースの確保ができています。

課 題

- ・ 気軽に利用できる図書室等の整理・環境づくりとその利用促進のための地域へのPRが期待されます。
- ・ 公民館に設置している本は古いものも多く、蔵書の充実が望まれます。
- ・ 市立図書館の団体貸出の積極的な利用が期待されます。

(2) 井原保健センター（健康医療課・つどいの広場を含む）、児童会館等での取組

成 果

- ・ 井原保健センターで開催される4か月児健康診査と2歳児健康診査は、それぞれブックスタート事業・セカンドブック事業を実施する場として活用され、乳幼児から本に親しむ機会となっています。ここ数年間の継続した取り組みは、読書活動の好きな幼児・児童の増加や保護者の意識啓発に大きな役割を果たしています。
- ・ つどいの広場・児童会館では、本を手に取りやすい環境づくりに努めるとともに、読書活動の楽しみを知るきっかけづくりになる子どもや保護者向けのイベントを開催しています。

課 題

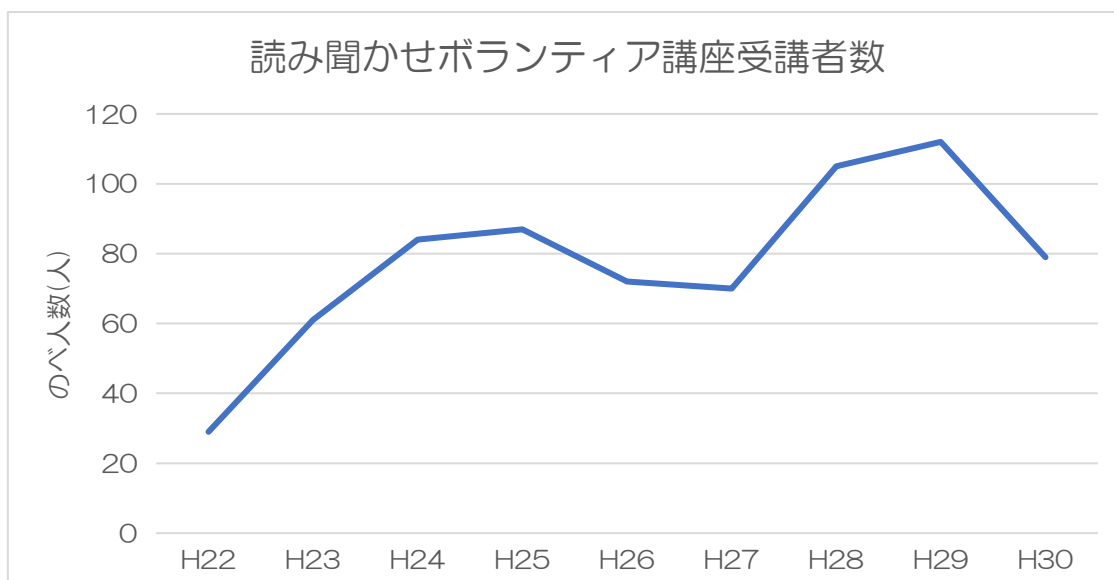
- ・ 市立図書館や子育てに関係する団体との連携強化と、活動内容の随時見直しが求められています。

(3) 読書ボランティア*11の取組

成 果

- 各学校園、公民館事業（幼児教育学級・家庭教育学級）や放課後児童クラブなどで、読み聞かせなどの活動を積極的に行っています。
- 市立図書館を活動の拠点として定例会を開催しています。
- スキルアップやボランティアスタッフの拡大のため、読み聞かせボランティア講座を年4回実施しています。年度によってばらつきがあるものの、受講者数はおおむね増加傾向にあります。

【読み聞かせボランティア講座参加者数の推移（人）】



課 題

- 今後も、読み聞かせボランティアによる活動がより充実したものとして継続していくために、更なるスキルアップが求められています。
- 学校園や公民館などへの読み聞かせボランティアに関する情報提供がより求められます。
- ボランティア講座参加者が固定化の傾向があり、新しい受講生を獲得するための工夫が求められています。
- メンバーの固定化、高齢化傾向があり、読み聞かせボランティアのスタッフの維持・拡充に向け、新規ボランティア登録の啓発を積極的に行っていく必要があります。

第3章 子ども読書活動推進のための方策

1 家庭における子どもの読書活動推進

(1) 家庭の役割

子どもの読書習慣は、日常生活における豊かな読書経験の積み重ねによって形成されるものです。そのため、読書活動が生活の中に位置づけられるよう、できるだけ早期から意図的・継続的に読書活動を取り入れるよう配慮することは、家庭の重要な役割と言えます。

家庭においては、保護者が意識的に身近に本がある環境をつくり、子どもと一緒に読書に親しむ機会をもつなどして、子どもが本と出会うきっかけをつくります。そして、その後も発達段階に合わせて、子どもたちの読書活動に対する興味・関心を引き出していく働きかけが求められます。また、そのような働きかけによって高められた子どもたちの読書意欲を基盤として、よりよい読書習慣づくりやその後の発達段階における自主的な読書活動への発展を支えていくために、学校園や市立図書館等の取り組みを活用していくことも大切です。

(2) 家庭の取組

- ・ 親自身が積極的に読書を行うことで、読書が身近にある環境づくりに努めます。
- ・ 同じ絵本や本を親子で読むなど、家読（うちどく）※¹²を行い、読書活動を通じて親子の時間の共有やふれあいを行います。
- ・ 市立図書館などの施設と一緒にいくことで、絵本や本との出会いを促します。
- ・ 本や読書イベントに関する情報収集、情報共有に努めます。
- ・ 親子で読書イベントに参加したり、すすんで読書ボランティアに参加したりします。
- ・ ノーメディアの取り組みを実施するなど、生活リズムを整えて読書する時間を確保するように努めます。

2 学校園における子どもの読書活動推進

(1) 学校園の役割

園児・児童・生徒の読書習慣の確立のため、保育活動や教育活動の全般にわたり、言葉の力や豊かな心を育む中核的な活動の一つとして読書活動を位置付け、発達段階に応じた体系的な指導を家庭や地域との連携により推進します。

【幼稚園・保育園】

乳幼児期は、子どもが生まれて初めて絵本に出会う大切な時期です。

幼稚園・保育園では、幼稚園教育要領や保育所保育指針に基づき、乳幼児が読書活動の楽しさを知ることができるよう、絵本や物語に親しむ読み聞かせ等の読書活動を積極的に行うことが期待されています。

あわせて、預かり保育や一時保育における読み聞かせなどの読書活動の推進や異年齢交流を通じた読書活動の工夫も求められています。また、保護者への啓発も求められています。

【小学校】

小学生期は、読み聞かせや絵本の段階から文字中心の読書へのステップアップの時期を経て、興味・関心や目的に応じた主体的な読書に移行していく時期です。

この時期に読書好きな児童を育て、読書習慣確立の基盤づくりを進めることは、小学校の重要な役割のひとつと言えます。

小学校学習指導要領の趣旨から、言語活動充実のために読書活動を意図的、計画的に指導・推進することが期待されています。

その際、読書習慣が確実に定着するために、市立図書館・家庭・地域との連携を推進することも求められています。

【中学校】

中学生期以降は、目的に応じた主体的な読書、豊かな読書体験や自己のものの見方や考え方の確立につながる幅広い読書を通じて、読書習慣がより深く定着してくる時期です。この時期には、読書を生活の一部として取り入れるとともに、より質の高い読書を指向する生徒を多く育てることが求められています。

中学校学習指導要領の趣旨から、小学校と同様に言語活動充実のために読書活動を意図的、計画的に指導・推進することが期待されています。

その際、読書習慣がより確かに定着するために生徒一人一人のニーズに即した適切な助言やメディアリテラシー※¹³に関する学習、学校図書館の条件整備、市立図書館・家庭・地域との連携が求められています。

(2) 学校園の取組

全 体

- ・ 読み聞かせをはじめとする読書活動の意義に関する家庭への啓発を工夫、継続して行います。
- ・ 子どもが気軽に図書に出会えるような魅力ある学校図書館や図書スペースとなるよう、環境整備をより一層進めていきます。
- ・ 図書の計画的な購入を引き続き進め、蔵書の充実に努めます。
- ・ 読書ボランティア、図書館司書等との連携を強め、読書関連行事等の活動を一層工夫して展開します。

幼稚園・保育園

- ・ 読み聞かせや紙芝居、ストーリーテリングなどの読書活動を、引き続き計画的に実施します。
- ・ 蔵書数の充実に努めるとともに、図書館団体貸出の利用等の連携を引き続き進めます。
- ・ 職員を対象とした読書活動に関する研修会を実施したり、外部の研修会に参加したりします。

小学校・中学校

- 読み聞かせや朝読書をはじめとする一斉読書^{*14}の時間を計画的に設定します。
- 市や県の取り組みを参考に、推薦図書等のブックリストを各校で工夫して設定し、保護者と学校で目標を共有します。
- 教科指導に関連した図書を計画的に購入します。あわせて、利用活用に努めます。
- 家族読書やノーメディアの取り組み、生活リズムのチェック等を実施することで、児童・生徒が読書活動に親しむ機会を増やすよう努めます。
- 移動図書館車「さくら号」の利用促進に一層努めます。
- メディアの影響や読書活動の意義を理解するための児童・生徒の学習や職員対象の研修を実施したり、外部の研修会にも参加したりします。
- 児童・生徒の興味関心や目的に応じた幅広い読書を支援するよう、職員によるレファレンス機能の強化に努めます。
- 保護者に対しての啓発をPTAと連携するなどして引き続き行っていきます。
- 特別な支援を必要とする児童・生徒の読書活動の支援に取り組みます。

3 市立図書館における子どもの読書活動推進

(1) 市立図書館の役割

図書館は、子どもにとって多くの図書の中から自由に選び、読書活動の楽しさを体感する場所として、親しみやすく身近な存在となることが求められています。

そのために、気軽に図書館を利用できる雰囲気づくりに努めたり、家庭や学校、地域で日常的に図書を入手しやすい環境整備を行ったりしていく必要があります。

子どもたちの「知りたい・読みたい」という要望に素早く応え、いつでも図書館を利用できる環境づくりを促進することも重要であり、職員のサービス向上や市内3館及び市外図書館との連携が大切です。また、学校司書や司書教諭との情報共有など各学校園との連携をはじめ、公民館などの市内公共施設と連携した総合的な推進が期待されています。

(2) 市立図書館の取組

- 市内3館・移動図書館車「さくら号」の図書の充実を引き続き進め、各学校園や地域への団体貸出の利用推進に努めます。
- 市内3館の蔵書を週4回相互に配送を行い、また、県内外の図書館から相互貸借を行うことで、リクエストやレファレンス機能の充実に引き続き努めます。
- ブックスタート事業・セカンドブック事業を継続して行い、保護者に向け、子育てにおける読書の意義や絵本の紹介や読みきかせの方法等について説明を行います。また、セカンドブック事業ではアンケート調査を実施し、ブックスタート事業以降の家庭での読み聞かせ状況について把握し、再度保護者啓発していくことに努めます。
- 図書館ホームページの「こどもページ」において図書館の利用促進を行います。
- 「こどもとよだより」を引き続き発行し、新刊図書や推薦図書を紹介していきます。
- ヤングアダルト^{*15}など中学生期に興味関心があるライトノベルや目的に応じた幅広い図書を引き続き収集し、情報提供を行います。

- 子どもが参加できるイベント、子育てをしている保護者や家族を対象としたイベントなど、各年代が参加できる読書イベントを、開催場所や日時の配慮を行うなどして計画・実施します。
- 井原市ホームページ、図書館ホームページ、広報いばら、井原放送、チラシやポスター等を通じて読書活動推進のイベント等の情報提供を、引き続き行います。
- 職員が児童サービスの研修に参加し、情報収集や知識・技術の習得に努めます。
- ボランティア講座を引き続き工夫して実施したり、地区ボランティア団体等と連携していく中で、新規ボランティアの拡大に努めます。
- 読書離れが進む傾向にある学齢の高い子どもが読書への興味・関心を高められるよう、学校園等と連携に努めます。

4 地域における子どもの読書活動推進

(1) 地域の役割

子どもの読書活動推進における地域の役割は、家庭・学校・市立図書館・子育てに係る団体・施設等が行う読書活動を支援していくことにあります。

そのためには、読書活動の会場の提供や、読書活動に関連する講演やイベントの開催、読書ボランティア活動や家庭への啓発が求められています。

(2) 地域の取組

公民館

- ・ 幼児教育学級・家庭教育学級の活動支援を行うとともに、気軽に本を手にとることができる環境づくりや図書館団体貸出を活用するなどして、地域の読書スペースとしての利用の周知を図ります。
- ・ 土曜学習の時間において、読書の活用をすすめます。

健康医療課

- ・ 健康医療課は、乳幼児健康診査^{*16}時を利用して、引き続き、子どもと絵本の出会いの場を提供します。併せて、保護者啓発も行います。

つどいの広場

- ・ 読み聞かせやお話し会などの読書イベントを開催します。また保護者に対して家庭での読書活動の啓発も行います。

児童会館

- ・ イベント開催にあわせて、読み聞かせや本の紹介などの読書活動に関する内容を組み込んだり、家庭での読書活動の啓発を行ったりします。

放課後児童クラブ

- ・ 読書ボランティアと連携を図り、読み聞かせ等の読書活動の機会を増やしたり、図書館団体貸出を利用したりして、読書環境を整えます。

読書ボランティア

- ・ 公民館や学校園・母親クラブや放課後児童クラブなどの読書活動の支援を積極的に行います。

【平成30年度中に図書館団体貸出を利用した団体数】

	団体数
読み聞かせボランティア団体	9
幼稚園	11
高齢者福祉施設	10
保育園	6
児童クラブ	13
児童会館	4
高等学校	1
公民館	2
その他福祉施設	2
その他教育施設	1
その他	10
合計	69

第4章 子どもの読書活動推進体制の整備及び広報啓発

この計画は、アンケート等により明らかとなった井原市の子どもの読書活動推進に関わる実態や課題をもとに、今後5年間の展望を見すえて策定したものです。

「井原子ども読書推進実行委員会」（以下「実行委員会」という。）には、この計画をもとに、子どもの読書活動の一層の推進に向けて、各推進主体が組織的な連携を図るための体制づくりを行っていくとともに、それぞれの取り組みを総合的に支援・推進していくことが求められます。

1 推進体制の整備

- それぞれの推進主体における活動の充実と強化に向け、井原市の子ども読書活動推進の拠点を実行委員会とします。
- 実行委員会は、この計画の進捗状況について随時把握・検討し、読書活動の推進に努めます。
- 井原市教育委員会は、実行委員会の事務局として各推進主体の取り組みを支援するとともに、関係各課との連携を図ります。

2 各推進主体の連携強化

- 実行委員会が中心となり、組織的な取り組みとなるよう各推進主体の連携強化を図ります。
- 実行委員会の定例会（年間2回。協議事項がある場合は、臨時会を開催する場合も有り。）を、各推進主体の交流や情報共有の場とします。

3 読書活動推進の啓発

- 実行委員会は、各推進主体の取り組みが組織的かつ全市的なものになるよう、総合的な支援・推進に努めます。

例）、「子ども読書の日^{*17}」などのさまざまな機会をとらえて読書活動に関わる幅広い情報を発信する。

・広報誌やホームページ、ケーブルテレビ（井原放送）、緊急告知端末器「お知らせくん」などを活用する。

おわりに

本計画は、第3次計画で判明した課題を絞り込み、現在の子どもたちを取り巻く環境も加味して策定いたしました。

ブックスタート事業・セカンドブック事業が定着し、読み聞かせや読書活動の重要性が、少しずつ市民の間に浸透しつつあります。

この傾向が、小学校高学年や中学生など、学齢の高い子どもたちやその保護者にも持続し広がるよう一層の努力をする必要があります。

今後も、「井原子ども読書推進実行委員会」が中心となって各推進主体の取り組みを支えるとともに、関係機関や地域の方々の協力を得ながら、子どもが本と仲良くなり、豊かな心と生きる力を育むよう本計画を進めてまいります。

注釈

- ※1 読書活動 …
読書（本を読むこと）、またそれに関連したすべての活動のこと。ここでは、子ども自身が行う読書から発展した活動（関連した本を更に読む、感想文を書くなど）を主に指すが、子どもの主体的な読書を引き出すために各推進主体が意図的に仕組む活動（読み聞かせをする、家族読書を行う、本を紹介するなど）を含む場合もある。
- ※2 電子メディア …
情報の記録・伝達・保管などに用いられる物や装置、システムのこと。ここでは、主にテレビ、ゲーム、パソコン、携帯情報端末（ケータイ、スマホ、タブレット等）を指す。
- ※3 家族読書 …
一緒に本を読んだり、本について話をしたりするなど、家族が読書活動を通じて時間を共有すること。
- ※4 不読率 …
1か月間に1冊も本を読まなかった人の割合のこと。第3次計画では「未読率」としているが、国、県の記述に準じて「不読率」としている。
- ※5 ブックスタート事業 …
赤ちゃんと保護者に対し、親子で一緒に絵本に親しむことの大切さを伝えながら絵本を贈る事業のこと。井原市では4冊のうち2冊を保護者に選択してもらい、絵本リストや図書館利用登録申込用紙と一緒に配付している。4か月児健康診査の際に行う。
- ※6 セカンドブック事業 …
ブックスタート事業のフォローアップ事業として行っている事業のこと。絵本との関わりを継続させ、家庭での読書活動をさらに広げることで、子どもたちのすこやかな成長を支援することを目的としており、2・3歳児用のオススメ絵本の読み聞かせや関係資料の配布などを行っている。2歳児健康診査の際行う。
- ※7 ストーリーテリング …
話し手が、お話や物語を覚えて本なしで聞き手に語って聴かせること。
- ※8 リクエスト …
利用者が求める図書が未所蔵の場合に、購入または他館から借りてきて提供すること。

- ※9 レファレンス機能 …
利用者の求める質問に対して、図書館職員が回答に必要な図書の紹介や資料の検索・情報等の提供などを行うこと。
- ※10 読書手帳 …
図書館での借受履歴や読書履歴を記入するための手帳を図書館が提供するサービス。井原市では、利用者が自分で読書手帳に書き込む自書タイプを配布している。
- ※11 読書ボランティア ……
読み聞かせボランティアや地域ボランティアなどが行っている読書活動に携わる活動のこと。
- ※12 家読（うちどく） ……
家庭において子どもを中心に家族で同じ本を読むことで、本を媒体として相互理解を深め、家族の絆が一層深まることを目指す活動のこと。
- ※13 メディアリテラシー ……
メディアの特性や利用方法を理解し、適切な手段で自分の考えを他者に伝達し、あるいはメディアを流れる情報を取捨選択して活用する能力のこと。
- ※14 一斉読書 ……
学級や学年、学校全体で時間を設定し、一斉に読書活動を行うこと。
- ※15 ヤングアダルト ……
アメリカで「若い大人」という意味で、13歳～19歳の世代を指して使われている言葉のこと。本文中においては、思春期世代むけの図書のジャンルを指す。
- ※16 乳幼児健康診査 ……
4か月児健康診査・1歳6か月児健康診査・2歳児健康診査・3歳児健康診査の総称。各健康診査の際には保育士や図書館司書による読み聞かせを行っている。
- ※17 子ども読書の日 ……
国民の間に広く子ども読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために制定されたもの。「子ども読書活動の推進に関する法律」では4月23日を「子ども読書の日」と定めている。

参考資料

【資料1】

第4次計画 概要版

【資料2】

井原市子ども読書活動推進計画アンケート実施状況

井原市子ども読書活動推進計画アンケート結果(一部抜粋)

【資料3】

第4次子ども読書活動推進計画策定委員会委員名簿

第4次井原市子ども読書活動推進計画 ～いばらいきいき読書プラン～

各推進主体【 家庭・学校・市立図書館・地域 】の役割や主な方策及び、井原子ども読書推進実行委員会の役割（◎役割 ○主な方策）

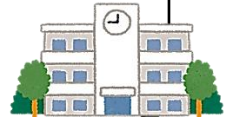
家庭

- ◎身近に本がある環境をつくり、親子が一緒に読書に親しむ機会を多く持ち、子どもが本と出会うきっかけをつくります。
- 家読等の読書活動を通して親子の時間を共有するよう努めます。
- 生活リズムを整え、読書の時間を確保できるようにします。



学校

- ◎家庭や地域と目標を共有して読書活動を推進します。
- 発達段階に応じた体系的な読書指導や環境整備に取り組みます。
- 生活リズムを整え読書の時間を確保したり、読書関連行事や学級指導を工夫するなどして、読書離れの傾向に歯止めを掛けるよう努めます。



めざす子ども像	自ら本を読む子ども 読書を通じ自分の生活を豊かにできる子ども	未読率の目標値	令和6年までに 0%
---------	-----------------------------------	---------	---------------

発達段階における目標（要約）

乳幼児期

絵本との出会いや読み聞かせなどを通して、子どもが本に親しんだり、それらを読んでくれる大人たちとふれあったりすることで、本や読書活動が好きなお子どもを育てます。



小学生期

読書の楽しさを感じたり、読書を通して学ぶ経験をしたりすることで、読み聞かせから読書への移行を支援し、子どもの読書意欲の向上や読書習慣の基礎づくりを図ります。



中学生期以降

さまざまなジャンルの本との出会いなどを通して、単に学習のための読書という枠を越え、自らの興味関心や目的に応じた幅広く専門的な読書や読書活動ができるよう支援します。



推進主体の連携

推進主体の連携

市立図書館

- ◎気軽に図書館を利用できる雰囲気づくりと、いつでも図書と出会う環境づくりを行います。
- ブックスタート事業・セカンドブック事業を実施し、本の好きな子を育てます。併せて保護者啓発も行います。
- 市内3館・移動図書館車「さくら号」の図書の充実を図り各学校園や公民館などの公共施設への団体貸出を一層進めます。
- 読書ボランティアの拡大を図ります。



地域

- ◎公民館等で、読書活動の会場の提供や、ニーズに応じた講演やイベントの開催、読書ボランティア活動を行います。
- 読書ボランティアは、家庭・学校・市立図書館・子育てに係る団体（幼児学級・家庭教育学級、放課後児童クラブ等）が行う読書活動を積極的に支援します。



- 推進体制の整備
- 各推進主体の連携強化
- 読書活動推進の啓発

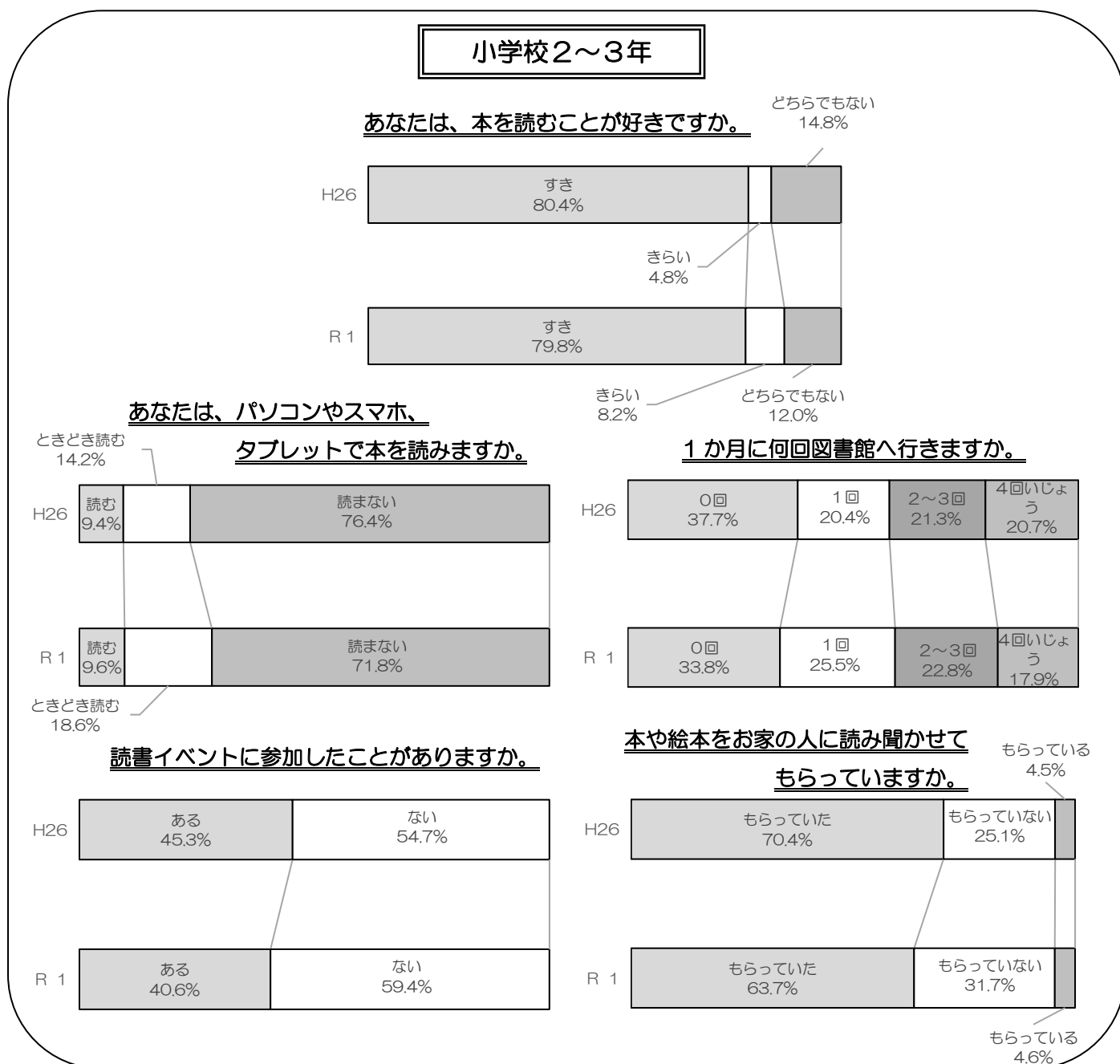
井原子ども読書推進実行委員会

資料 2

【第 4 次井原市子ども読書活動推進計画アンケート実施状況（令和元年 7 月実施）】
 （（ ）内は第 3 次アンケート（平成 2 6 年 7 月実施）の数字）

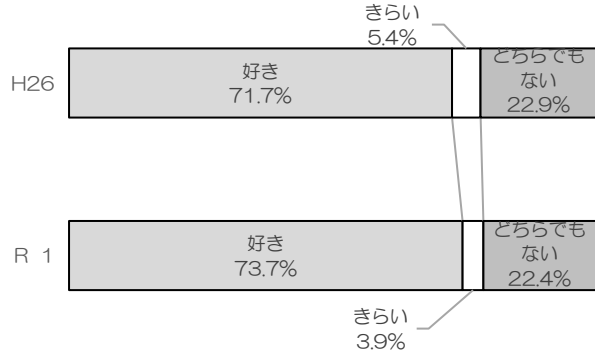
	配付（人）	回収（人）	回収率（%）
小学校 2～3 年（1～3 年）	297（352）	292（335）	98（95）
小学校 4～6 年	317（352）	308（336）	97（95）
中学生	283（398）	261（384）	92（96）
幼稚園・保育園児保護者	316（387）	281（372）	89（96）
小学生保護者	298（338）	259（290）	87（86）
中学生保護者	293（400）	221（239）	75（60）

【井原市子ども読書活動推進計画アンケート結果（一部抜粋）】



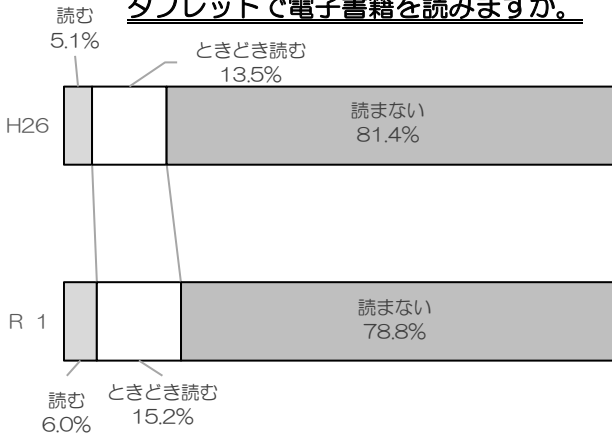
小学校4～6年生

あなたは、本を読むことが好きですか。

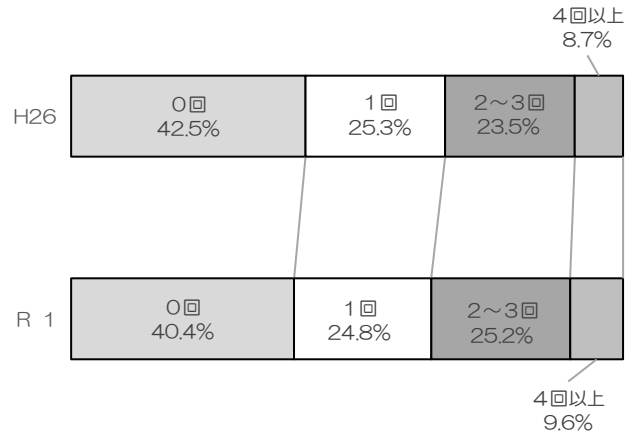


あなたは、パソコンやスマホ、

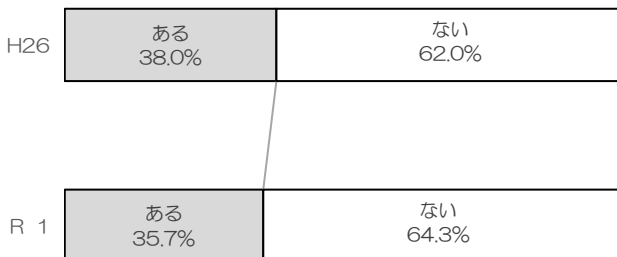
タブレットで電子書籍を読みますか。



1か月に何回図書館へ行きますか。

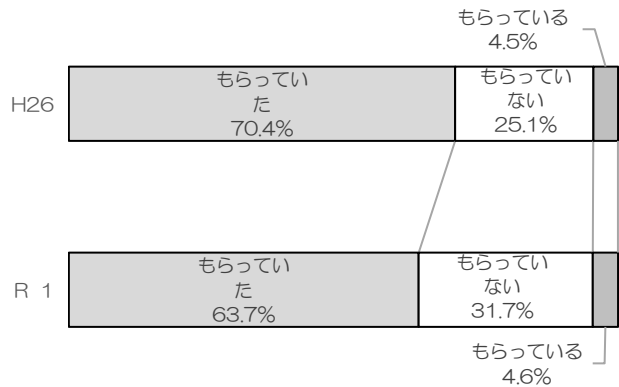


読書イベントに参加したことがありますか。



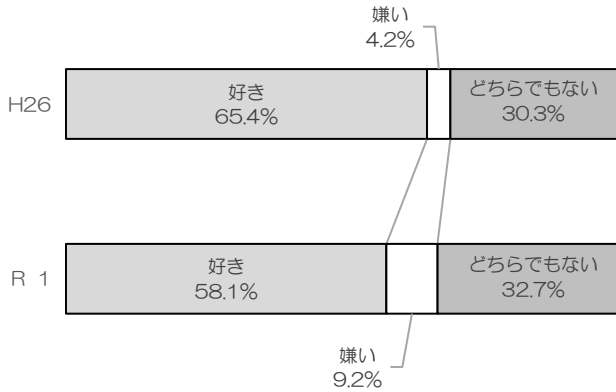
お家の人に読み聞かせて

もらっていますか。

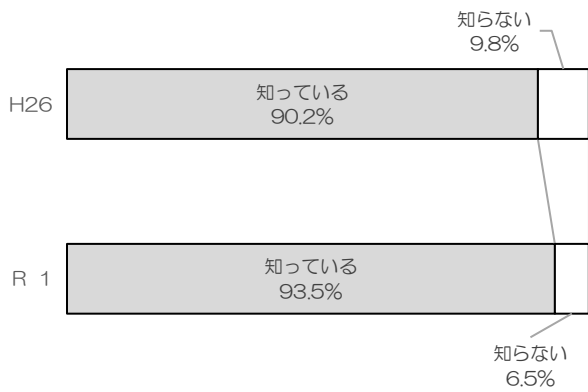


中学生

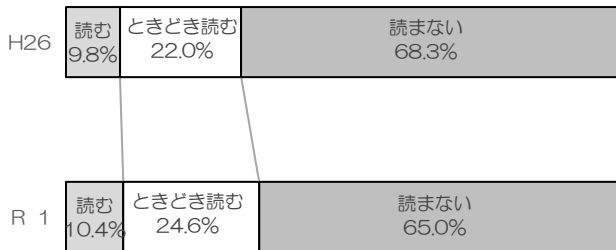
あなたは、本を読むことが好きですか。



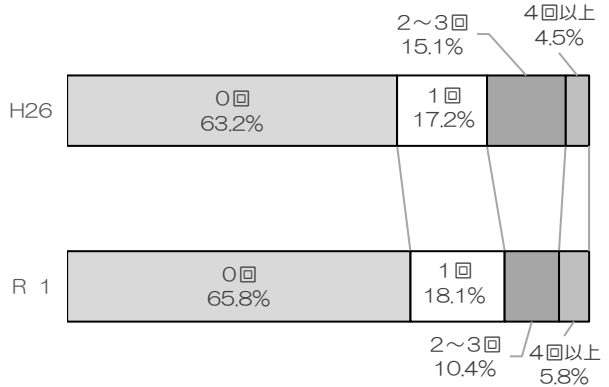
図書館の場所を知っていますか。



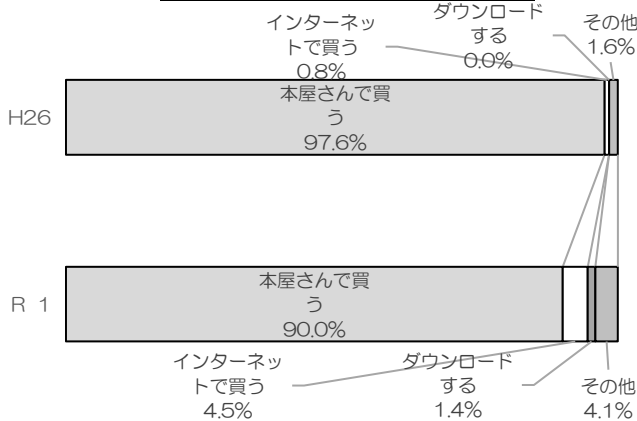
あなたは、パソコンやスマホ、 タブレットで電子書籍を読みますか。



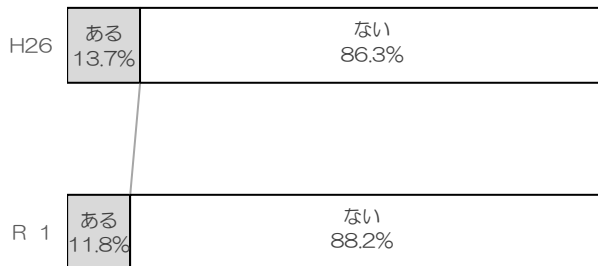
1か月に何回図書館へ行きますか。



どうやって本を購入しますか。

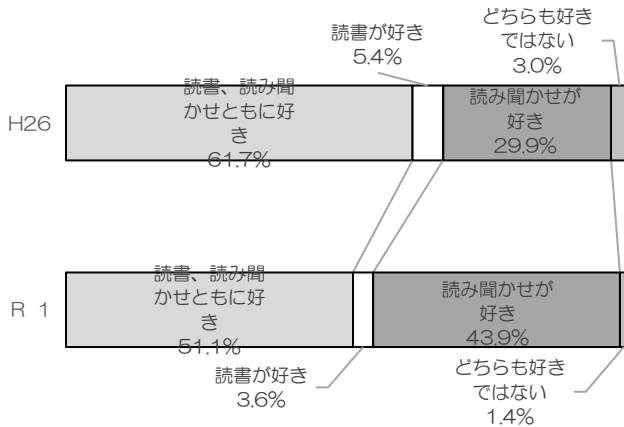


読書イベントに参加したことがありますか。

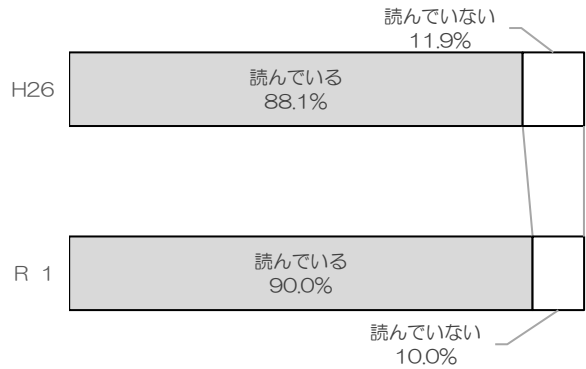


幼稚園・保育園児保護者

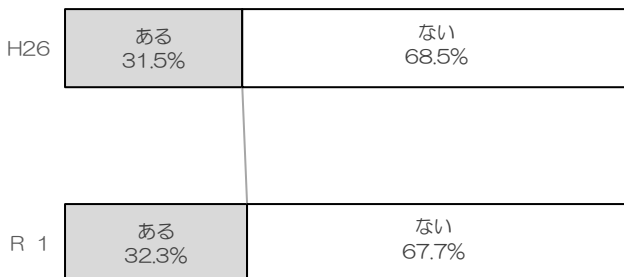
読書や読み聞かせを大切に思いますか。



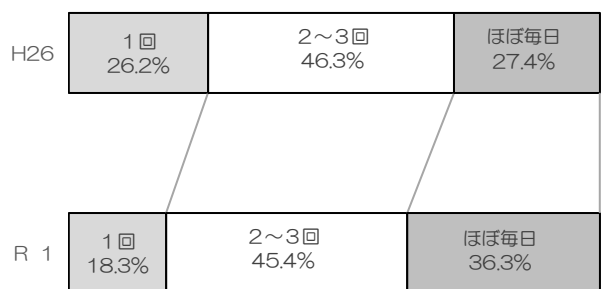
家庭で読み聞かせをしていますか。



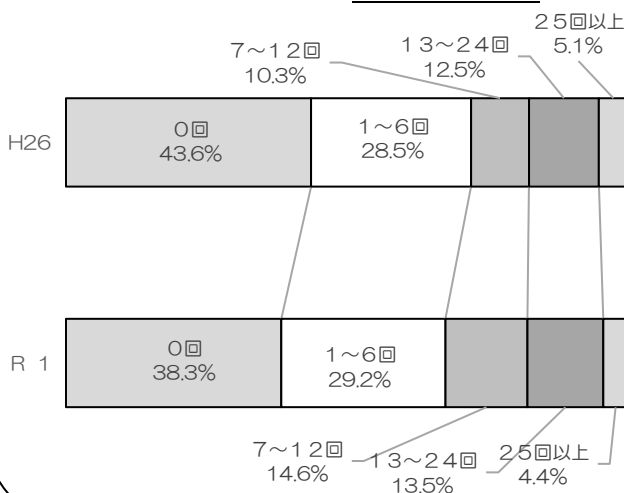
読書イベントに参加したことがありますか。



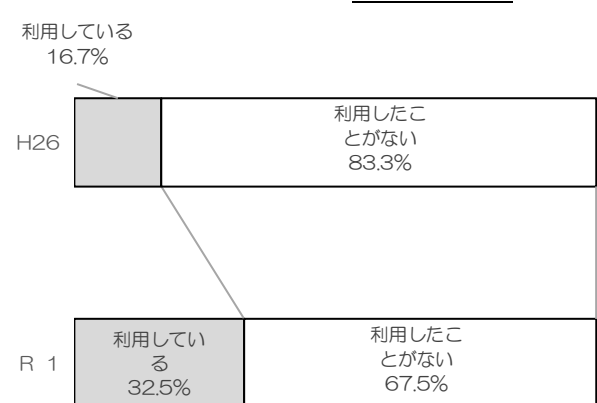
1週間に読み聞かせを何回しますか。



この1年間で何回図書館に行きましたか。



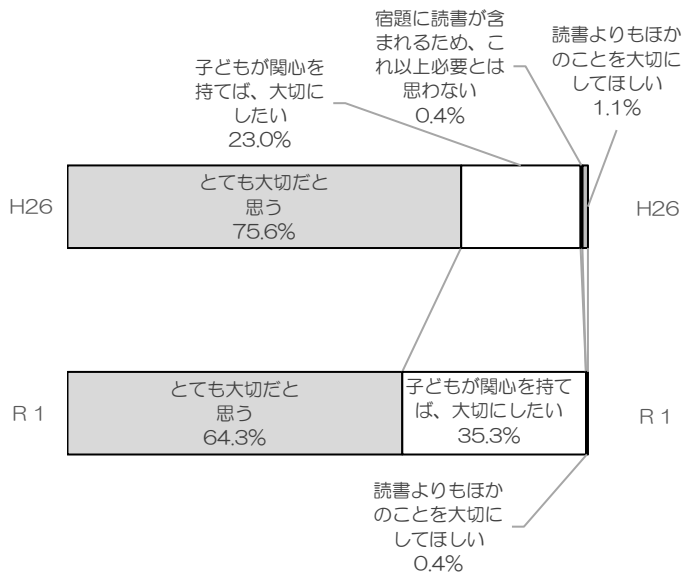
電子書籍を利用したことはありますか。



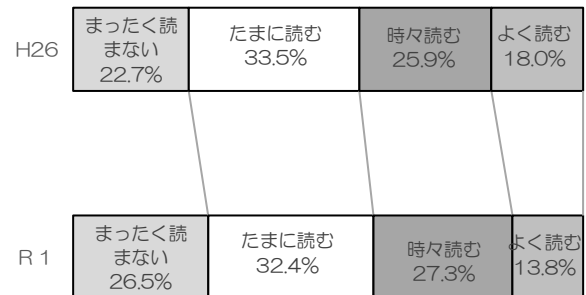
小学生保護者

子どもの読書の必要性を

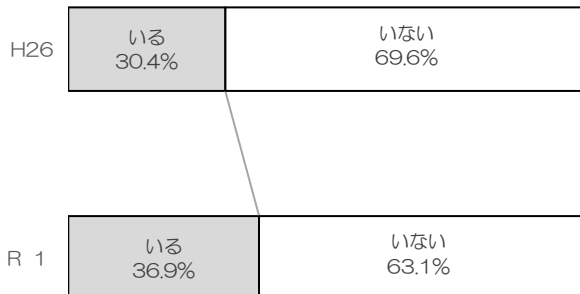
どのように考えていますか。



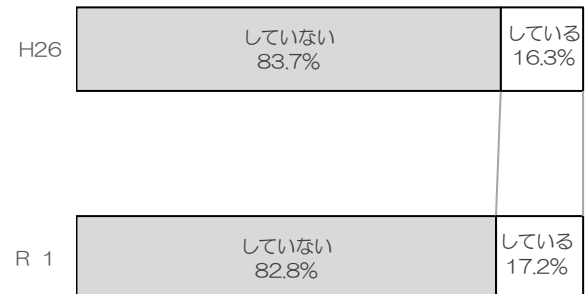
あなたは、書籍を読みますか。



家庭で読み聞かせをしていますか。

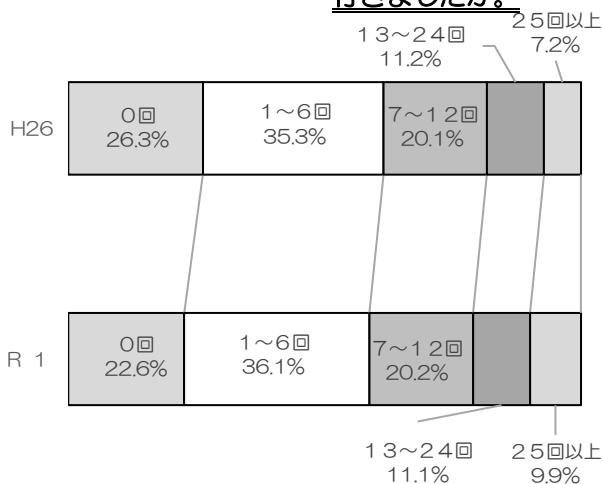


家庭で一緒に読書をしていますか。

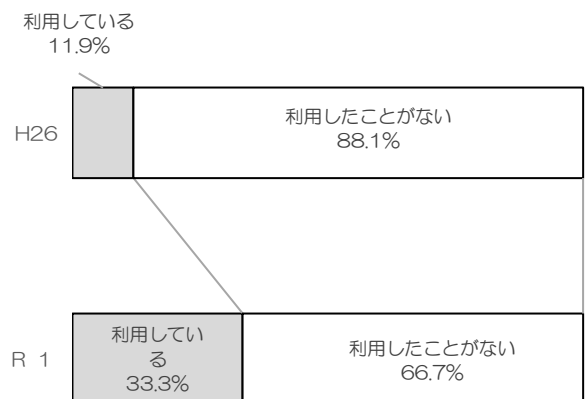


この1年間で何回図書館に

行きましたか。



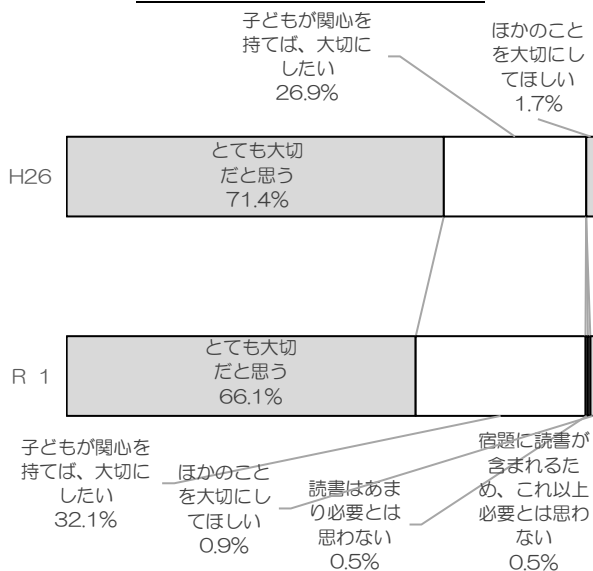
電子書籍を利用したことはありますか。



中学生保護者

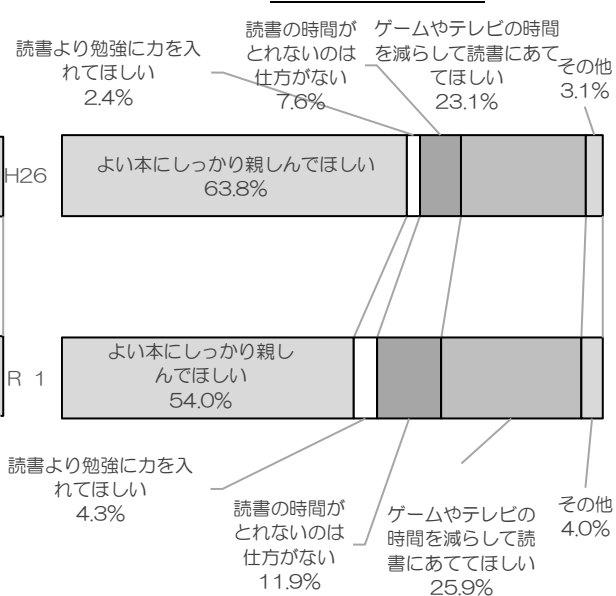
子どもの読書の必要性を

どのように考えていますか。

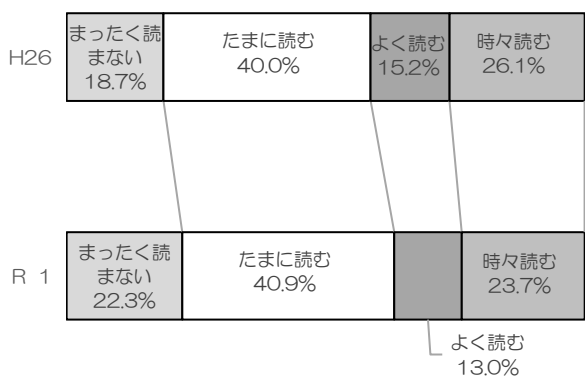


「中学生の読書」について

どう思いますか。

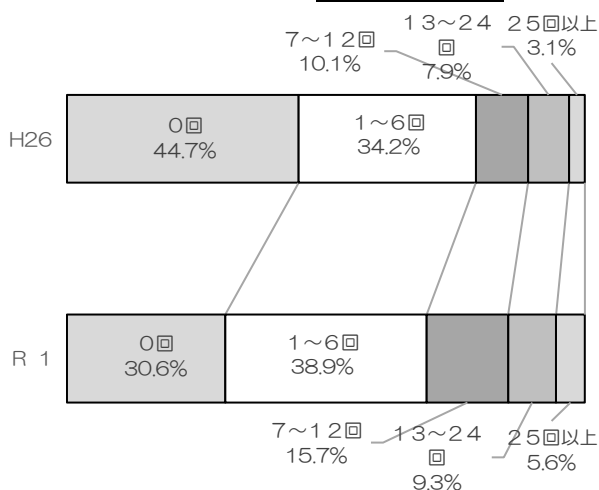


あなたは、書籍を読みますか。



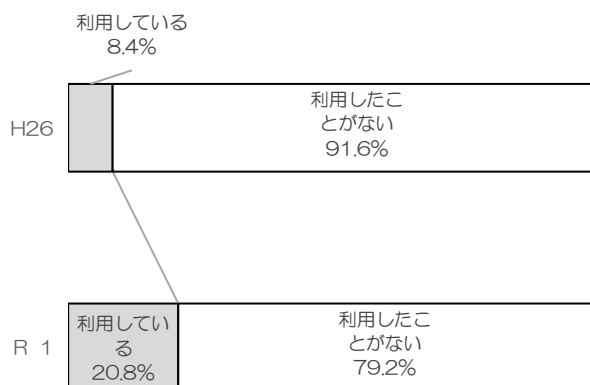
この1年間に何回図書館に

行きましたか。



電子書籍を利用したことは

ありますか。



第4次子ども読書活動推進計画策定委員会委員名簿

氏名	所属等	備考
片岡 幸政	中央公民館長	委員長
岡崎 純子	芳井読み聞かせボランティアグループ「ごぼうさらだ」代表	副委員長
岡本 健	井原市立芳井小学校長（井原市図書館協議会）	副委員長
落合由紀子	朗読録音グループ「わかくさ」代表	
落合 敏恵	学識経験者	
金高さおり	美星読み聞かせボランティアグループ「いちごみるく」代表	
西田 友美	井原市教育委員会教育委員	
唐木 朝美	中央家庭教育学級副級長	
津島 一視	井原市立井原中学校司書	
中塚 順子	井原市立井原図書館司書	
田邊 啓子	健康医療課保健師	
佐藤 利枝	子育て支援コーディネーター	
今井 浩	井原市教育委員会学校教育課長	

第4次井原市子ども読書活動推進計画
～いばらいきいき読書プラン～

発 行	井原市
問い合わせ先	井原市教育委員会生涯学習課
	〒715-0014 井原市七日市町 12 番地 1
	TEL 0866-63-3347 / FAX 0866-63-3348
	MAIL shogai@city.ibara.lg.jp